

夏の日の戯れ

帝キネ 芦屋現代映畫

原作並脚色者

夏川 涼史氏

監督者

佐藤 樹一路氏

撮影者

岡本 静夫氏

主演者

濱田 格氏

紹介

瀨川 銀湖氏

富士 日出子嬢

第二百廿九號

「男對女」の姉妹篇とも云ふべきもので佐藤樹一路氏がとうとうものにした氏得意のアシヤ喜劇である。「男對女」同様此映畫も脚色と撮影技巧の要領へ好みに依つて中々愉快に見られるもので、佐藤樹一路氏がこうしたもの呼吸を好く吞込んで來た事を嬉しく思ふ。筋だの俳優の演技云々を云はしめないで只面白かつたと思はせる點に佐藤氏の進歩を裏書きして居ると思ふ。濱田格氏も佐藤氏の喜劇に依つて可成り救はれて居る、それは氏の辭の多い演技を眼障にならぬ程度に見る事が出来るからである。富士日出子嬢のお千代と笠置倭文字嬢の喜代香が各々役の感じを出して居た。

—— 山本 綠葉 ——

興行價値——誰にでも受ける音屋獨得の喜劇、氣が利いた所があるからファンも相當好意を持つてあろう。(九月八日 大阪芦屋劇場、京都キネマ倶楽部封切)